

評価事務事業名	地域自主組織育成支援事業
---------	--------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	65 / 100点		
	参考値		
	高 85	低 55	

人口減少が進む地域課題への取り組み良いが、地区住民のより多くが参加し、活動計画の継続や修正について発言できるよう担当課は指導すべきではないか。
 1組織1年当たり一律300万円の補助金は、組織の将来を見据えて、検討する必要がある。
 自主組織、行政、議会など関係者間で、自主組織の目的の認識に齟齬があり、明確にする必要がある。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

この事業の目的は、「地域の課題」の解決であるという原点を関係者が確認したうえで、イベント等の地域活性化の取り組みは、そのための一つの手法であるとの認識を共有すべきである。ただし、自主組織設立後、活動の初期段階においては、活性化の取り組みが主軸となることはやむを得ないものである。

町は自主組織の自主財源確保のためとして、町が発注する委託事業のうち受託可能なものは受注するよう推奨しているが、補助金を含めた自主組織の財源について考え方を明示すべきである。

たとえば、自主組織を地区区長会の下に置くなど、町は相互の関係を明確にして自主組織の活動を進めると住民の関心も深まり、参加者の幅も広がるのではないか。

今後、自主組織育成のために町が取り組む必要のある具体的な事項は、評価方法の確立、営利・非営利問わず全収支が把握できるよう収支決算書、活動報告様式の改善、税務・労務等、団体活動に求められるコンプライアンスの徹底が挙げられる。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

自主組織における財源の確保は、継続的な自主活動担保の手段として組織において検討をいただきたいと考えますが、その実行にあたっては、コンプライアンスの順守について、町からも情報提供を行う考えです。

あわせて、町補助金の交付先団体であることから、各組織の収支状況等については、町補助金の関わる部分を含め、全体を把握するための資料提供について、補助金実績報告時に求めていく考えです。

6. 委員会の総括

町は、提案している事業目的の確認及びイベント等の地域活性化の取り組みに対する認識の共有について、何等の言及もしてない。

また、町は自主組織の自主財源確保について、自主活動担保の手段として各組織において検討してほしいとし、その実行にあたって遵守すべき事項については情報提供を行うとしているが、提案で求めた「補助金を含めた自主組織の財源についての考え方」は具体的に示されていない。

同じく、町は「自主組織と地区区長会の関係を明確にして自主組織の活動を進めては」との提案に対しても言及がない。

今後、町が取り組む必要のある具体的な事項については、「町補助金に関わる部分を含め、全体を把握する資料の提供を求める」とし、コンプライアンスの徹底については情報提供にとどまっている。

極めて不十分な対応であり、今後、委員会審査において随時検証していく必要がある。

評価事務事業名	輝くシルバー交付金事業
---------	-------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	53 / 100点		
	参考値		
	高 75	低 25	

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

<p>シルバー交付金の交付額や事業内容についての町民の詳細なニーズ調査をしてはどうか。 調査の結果、把握したニーズを実現する上で、例えば地域の支え合い活動などについて、集落によっては集落単位で担うことが難しい場合があるときに、地域自主組織や社会福祉協議会などの各種団体と協働しやすいような制度設計や改善を検討できないか。 また、特に敬老事業については、公平平等の観点から、区長の事務処理能力の事情で取り組めないということがないよう、申請がなくとも一律に各集落へ支給する仕組みも検討してもらいたい。 さらに、各集落が事業の中身を理解しやすいように、事業概要がわかりやすい説明ツールをつくるなどの創意工夫をお願いしたい。</p>

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

<p>ご提案いただきました輝くシルバー交付金事業につきましては、今後、集落代表者の事務処理能力によらず交付金が受け取れるよう、総務課が所管する集落コミュニティ活動補助金との一本化交付も視野に検討を行っていききたいと思います。 また生活習慣病予防、閉じこもり予防については、事業の費用対効果を高めるため、在宅介護実態アンケート調査の結果なども踏まえ、当課所管の地域介護予防活動支援事業との統合整理も視野に検討を進めていききたいと思います。</p>

6. 委員会の総括

<p>集落代表の事務処理能力によらず、全ての敬老対象者が交付金を受け取れるよう他の活動補助金との一本化交付の検討を注視していく。また、予防事業についても他の事業との統合整理など、効率化を注視していきたい。</p>
--

評価事務事業名	脳ドック助成事業
---------	----------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	52 / 100点		
	参考値		
	高 65	低 45	

早期発見、予防の観点から、より若い世代へのアプローチも必要／現状では事業目的が明確でなく、受診率は令和1年度7.1%、令和2年度4.8%、令和3年度3.4%であり、9%の目標を達成できていない／公共性や成果に疑問があり、見直しが必要／事業の必要性は高いが受診率が低い。助成額を増やすべき

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

早期発見・予防の観点からすれば、5年に1度という頻度が妥当であるとは考えにくい。高血圧や動脈硬化症の方など、特に受診が推奨されている人を含め、希望者は1/4程度の助成額で毎年でも受けられるようにしてはどうか。また、啓発や脳疾患の将来的なリスク診断の観点から、40歳以上でまだ一度も脳ドックを受診したことがない人に対しては、1回限り1/2程度の助成をしてはどうか。また、上記の提案にとどまらず、町診療医など有識者の知見やエビデンスを踏まえたうえで、事業の位置づけやあるべき姿について、再度整理をお願いしたい。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

脳血管疾患は発症に至るまでには長期間かかり、発症率が高まる年齢は50歳代、60歳代になります。また脳ドック未受診者が、こうした50歳代、60歳代でドック受診することは有意義なことであることから助成額の再考も含め診療所医師の知見やエビデンスを踏まえたうえで改正していきたいと考えています。

なお、高血圧や動脈硬化症等の有症者の毎年度ドック助成につきましては、当該疾患により毎年度希望されるのであれば、それは医療行為で行っていただくべきものと考えます。

6. 委員会の総括

助成額の再考も含めエビデンスを踏まえた改正を見守りたい。また、現状の5歳跳びの対象年齢では、一度タイミングを逃すと長期間利用ができなくなってしまう事例も生じているため、思い立ったときに制度が利用できるよう、予算審議の中で、より柔軟な運用の検討を求めている。

評価事務事業名	夕陽の丘神田運営事業
---------	------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	82 / 100点		
	参考値		
	高 95	低 70	

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

<p>4万人を超える集客や旅館宿泊への誘導、スポーツ振興の面で成果をあげているが、さらなる事業の充実を鑑み、以下の内容を委員会からの意見とする。</p> <p>①平成30年に宿泊事業を廃止し、その時点で指定管理料が約1500万円増加している。現在も宿泊客誘導はしているものの、さらなる囲い込みを行い、町内施設への誘導の徹底を要望する。指定管理料はふるさと応援基金からとなっているが、ランニングコストへの使用は抑えるべきで、収益化を図り減額することを期待する。</p> <p>②現在キャンプ場は、人の少ない穴場的な需要で人気のようにだが、2,000万円を超える指定管理料を考えると、しっかりとした収益化をすることが求められる。</p> <p>③本施設は町内交流拠点としての位置付けも大きい。イベント開催など利用増加の工夫が望まれる。</p> <p>④本施設は公費を入れ、魅力的な施設となってきているが、施設などへの誘導看板が少なく、webなどのPR不足から周知が不十分だと思われる。</p> <p>⑤利用者がより利用しやすいよう、トイレ等の環境整備にも配慮を求める。</p> <p>⑥町内中心部に位置する観光拠点として、点と点を線で結び町内滞在時間が増えるような工夫が求められる。</p>

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

<p>①冬季期間を除き、指定管理者業務及び鳥取県サッカー協会と毎月意見交換を行い、その都度、可能な限り、町内業者への誘導を依頼してきており一定の成果が出ています。引き続き依頼し、更なる徹底を求めていきます。施設の収益化に関しては、現在提案を行い、協議中の案件である天然芝グラウンドを2面化を含めた中長期計画策定を通して、収益の改善に向けて検討を進めて参ります。</p> <p>②現在のキャンプ場は、他グラウンド施設等の管理と一体になっており、極めてランニングコストがかかっておらず、施設の重要な副収入として機能しています。流行のグランピング施設等を整備し、高収益化を図る場合は、民間企業の連携や企業誘致等を踏まえた検討を進めます。</p> <p>③近年、コロナ禍もあり、指定管理業者の自主事業の実施予定であったJ-dreamサッカーフェスティバルやドローン講習会等実施できませんでしたが、全国的に活動制限の範囲が縮小してきており、R5年度以降は自主事業イベントの増加が見込まれます。</p> <p>④誘導看板については、必要な箇所を検討いたします。現在、本施設は、指定管理業者管理HP、指定管理業者Twitter、大山観光局管理HP、サッカー協会HP等に施設の掲載をしています。指定管理業者にも積極的な情報発信を依頼していきます。</p> <p>⑤現在提案中の中長期計画案に、既存施設の改修も含めて検討しております。利用者に配慮した施設への改修をコストと比較考量しながら、中長期計画の進捗に合わせて都度、協議して参ります。</p> <p>⑥本施設は、現在大山観光戦略の中で、海と山を繋ぐ中継点として位置付けております。一方、社会体育施設部分と観光施設部分の線引きを改めて検討する必要もあります。観光課所管他事業の進捗と併せて必要な整備を検討し、中長期計画の策定を通して協議して参ります。</p>

6. 委員会の総括

<p>事務事業評価で指摘した点について、項目別に前向きな方針が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WCサッカーカタル大会では、日本代表の活躍で人気沸騰のサッカー業界である。提案中の既存施設の改修により、サッカー協会との連携で自主事業イベントの増加を見込む。 ・キャンプはコロナ禍で人気が高まっており、施設の重要な副収入として機能している。収益改善を図るには提案中の中長期計画の中で協議する。 ・大山観光戦略の中で、海と山を繋ぐ中継拠点として位置づけしており、本町の海の拠点など基本プランに沿った中長期計画の策定を協議する。 <p>以上のことから、夕陽の丘神田運営については、今後を見守っていききたい。</p>

評価事務事業名	道路維持管理運営事業
---------	------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由
	65 / 100点		
	参考値		
	高 90	低 45	

広い面積を持つ大山町内の道路補修を隈無く整備するには、相応の予算とマンパワーが必要、現行の予算では緊急性の高いものは補正で実施し、妥当性がうかがえる。
 草刈りに関しては、住民のニーズを十分に反映しているとは言えない。草刈り作業が十分でない場所が散見される。シートNo3の「必要性」の項目では各委員、高い数字を入れているのに対して、「成果」の評価が低くなっていることから、最低、年2回の草刈りが必要だと思われる。

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

道路パトロールに加え、集落・住民の情報を的確に把握し、緊急性を考慮した作業を望む。そのためには自主組織や集落自治体との連携を的確に行って欲しい。

草刈りを伴う道路管理では、調査の中で重要な問題が多数あったため、項目にして提案する。

- ①草刈り作業後、刈り取られた草木や土砂がそのままである。特に溝に溜まると大雨で道路破損の恐れがあり、作業内容の統一が必要である。
- ②集落で、道路などを自主的に草刈り実施している箇所がある。草木などの廃棄指定場所を町で設置すべきである。
- ③最低、年2回の草刈りは必要だと思われる。
- ④作業員の高齢化もみられる。人員を短期ではなく、会計年度任用職員としても補充すべきである。
- ⑤国道や県道などの整備も足りない部分があり、県との密な連携を強く要望する。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

道路の維持においては全町的に十分な対応ができていないと認識しており今後は以下のように取り組むこととします。

- ①側溝清掃等の維持作業と除草後の集草の作業内容統一について検討を行います。特に堆積が著しい箇所においては速やかに撤去するよう努めます。
- ②廃棄指定箇所における集積等の維持管理作業を行う必要があり、今後の検討課題とします。
- ③新年度以降2回刈り路線の見直しを行います。
- ④3名を通年での会計年度任用職員として募集を予定しています。
- ⑤鳥取県とは毎年意見交換会を実施し課題を共有しています。又、都度必要に応じて対応を要請しております。

6. 委員会の総括

経済建設常任委員会として、この事業は道路管理者としての責務であり、事務事業評価に対する改善意見の提案に対して、町道などの草刈りに関しては、年2回の刈り路線の見直しを行う、不足しているマンパワー対策としては、3名を通年での会計年度任用職員として募集予定をするなど、要望を前向きに捉えており全般的に評価できる。